第20回 ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷

2015年 9月26日（土）
場所：日比谷図書文化館 B1F 日比谷コンベンションホール

ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷 第20回 記念イベント！

プログラム1：「いせ しんいち」の“今”　　プログラム2：「いせ ひでこ」の“今”

いせ しんいち × いせ ひでこ

（映像作家・かんとく）

1949年東京生まれ。
長年にわたりヒューマンドキュメンタリーを中心に製作。
様々な人の日常を温かい眼差しで
ほのぼのと映し出す作風で知られる。
近作は『妻の病ーレビー小体型認知症ー』
（2014）など。

（絵本作家・画家）

1949年北海道生まれ。
スケッチの旅での出会い・時間を大切にする
現場主義に徹した作品で知られる。
『ルリユールおじさん』をはじめ
数多くの絵本作品を出版。
絵と文によるエッセイ等も
多数執筆している。

スクリーンをとびだして、
絵本をとびだして、
ことばを探して、
ふたりの“いせ”の終わらない旅。
絵、音、映像、ことば……
映像作家・いせ しんいちと、
絵本作家・いせ ひでこの世界。

©Kojiro Hosoi

プログラム1

11：00（開場10：45）

伊勢真一 最新作 ヒューマンドキュメンタリー映画の上映

『ゆめのほとり － 認知症グループホーム 福寿荘 －』

※上映後、伊勢真一監督による舞台挨拶あり。

認知症の人は「何もわからない人」ではありません。北海道・札幌市にある認知症グループホーム 福寿荘の日常をスケッチした、穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。何気ない一言やワンシーンに耳を澄ませてください。（85分／2015年）

《料金》通常チケット：1,500円　映画パンフレット付：2,500円

プログラム2 【特別企画】

13：30（開場13：15）

©いせひでこ

いせひでこさんによるトーク＆スライドショー ほか

こころの木 ― 未完の物語 ―

「いせひでこ×いせしんいち」作家二人の対談をはじめ、
いせひでこさんの“今”が語られるトーク＆スライドショーや、
最新作の貴重な「原画」を鑑賞する時間（小さな展覧会）
など、一緒に“こころの木”を育てませんか？

※プログラムの詳細はウラ面をご覧ください。

《料金》通常チケット：2,000円　いせひでこ絵バンダナ付：2,500円

PRESENT! 当日ご来場のみなさまに、いせひでこさんの絵本「わたしの木、こころの木」の**ポストカード**プレゼント！

※各プログラムは「ご予約優先制」です。キャンセル料はかかりませんので事前のご予約をお勧めします。
ご予約の際は、①ご予約者名 ②人数 ③プログラム名（プログラム1・プログラム2）④チケットの種類（通常・○○付）をお知らせください。

主催：いせフィルム　クロスフィット　エンサイクロメディア　　協賛：Eisai　KYOWA KIRIN

協力：MOCプロジェクト　ヒポコミュニケーションズ　ジオングラフィック

プログラム2　【特別企画】 **13：30（開場13：15／15:15終了予定）**

《料金》通常チケット：2,000円
いせひでこ絵バンダナ付：2,500円

©いせひでこ

いせひでこさんによるトーク＆スライドショー ほか

こころの木 ― 未完の物語 ―

たとえば、一本の倒れたマツの木から、
二度と花を咲かせないサクラの木から、
きいたことはないだろうか。
かつて、森だった一本一本の木に見えない物語があった。
もうそこにはいない人の声、
かくれんぼしてしまった時の流れ、忘れられた物語。
あの日から、木はずっとずっとそこにいて、
だれかの代わりに、歌っていたのかもしれない。

―― いせひでこ

●オープニングトーク

いせひでこ×いせしんいち

姓が同じ「伊勢」でも全くの他人であるふたり。
お互いの創作活動への思い、「木に生まれ変わるとしたら？」など
作家同士のフリートークです。

●いせひでこトーク＆スライドショー

「こころの木 ― 未完の物語 ―」

昨年3月のヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷で開催した、
「いせひでこ 3月11日からの絵描きの旅」の第二弾ともいえる、
"終わらない旅"をつづける絵描き、いせひでこの未完の物語。
絵本作品や絵画、スケッチの紹介をまじえながら、
いせひでこさんが今"を語りおこします。

PRESENT!
当日ご来場のみなさまに、いせひでこさんの絵本
「わたしの木、こころの木」の**ポストカード**プレゼント！

●短編映像

『かたわら～吉田浜 心象～』（6分／演出：伊勢真一）

今年5月に宮城県で開催された復興支援「1000人のチェロコンサート」。
いせひでこさんも1000人のチェリストの一人として参加。
そこで演奏された楽曲「レクイエム」に寄せて、
2012年作品『傍（かたわら）～3月11日からの旅～』を
伊勢真一監督が再構成した短編映像を上映します。

●東京初公開！最新作 "原画" 鑑賞

今日ここだけの小さな展覧会

いせひでこさんの原画を間近で鑑賞することができる特別な時間です。
最新作は、東京では初めての一般公開。
前回（昨年3月）鑑賞した作品「クロマツ 雪」の原画、
そして、その連作となる"つづきの物語"に触れてください。

千代田区立
日比谷図書文化館

B1F 日比谷コンベンションホール（千代田区日比谷公園1番4号）
○東京メトロ 丸の内線・日比谷線・千代田線
「霞ケ関駅」　C4・B2出口より徒歩約5分
○都営地下鉄　三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
※専用の駐車場はありません。
日比谷公園地下公共駐車場をご利用ください。
※上映内容についてのお問合せは日比谷図書文化館ではなく、
お申し込み窓口宛にお願いいたします。

《次回予告》第21回 ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷　2016年 1月 16日（土）開催予定
映画『風のかたち ―小児がんと仲間たちの10年―』上映　ゲスト：細谷亮太（小児科医・俳人）森岡寛貴（グラフィックデザイナー）（予定）
※詳細は決まり次第ホームページにてお知らせいたします。ご案内をご希望の方は「いせフィルム」までご連絡ください。

― お問合せは「いせフィルム」まで ―

※「ご予約優先」満席の場合ご予約のお客様を優先させていただきます。
※小学生以下、障がい者の方は500円割引いたします。

FAX：03-3406-9460 / E-mail：ise-film@rio.odn.ne.jp

お電話でのお問合せはコチラ >>　TEL 03-3406-9455　（いせフィルム）

映画『妻の病 －レビー小体型認知症－』
2014年／カラー／87分／ハイビジョン

この映画は、認知症のドキュメンタリーというよりも、
ある夫婦の愛の物語だ。

「僕が彼女を見てるようで、
彼女は僕のことを鋭く見てるわけよね。」（浩市）

石本 浩市
1951年高知県南国市生まれ。小児がん医療に取り組み、最前線で活躍。小児がんの子どもたちのためのキャンプを、細谷亮太医師・月本一郎医師と共に立ち上げた。2001年、故郷・南国市へ戻り「あけぼの小児クリニック」を開業。地域医療に取り組み、現在に至る。

「何があったろうね、私は？」（弥生）

石本 弥生
1952年高知県南国市生まれ。石本浩市さんとは幼なじみ。2004年に統合失調症と診断される。その3年後、若年性のレビー小体型認知症であることが判明、現在に至る。

《映画にお寄せいただいたご感想》

ヒトが恋しくなる作品。（80代・男性）

病に焦点を当てるのではなく、人とその希望に焦点を当てている視点に大きな共感を覚えました。人の人格、「魂の本質：とは何であろうかと考えさせられると共に、美しいと感じました。（女性）

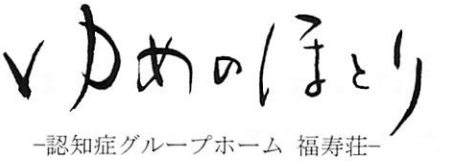
楽しく笑っていたわけじゃなくて、笑ってるから楽しいんだなぁ、と感じました。（30代・女性）

今朝、妻と口喧嘩をしてしまい、だからというわけではないのですが、とてもタイムリーに響きました。（30代・男性）

出演　石本浩市　石本弥生　石川真理　南国市・香南市・香美市のみなさん／題字　細谷亮太／撮影　石倉隆二／音響　米山靖／録音　渡辺丈彦／照明　工藤和雄／編集技術　尾尻弘一／整音助手　井上久美子／バンドネオン　大久保かおり／コントラバス　カイドーユタカ／音楽協力　横内丙午／宣伝デザイン　森岡寛貴（ジオングラフィック）／制作・上映デスク　遠藤郁美　鷲見真弓　増馬則子／協力　あけぼの小児クリニック　デイサービス「きとうせや」　日章小学校　スマートムンストン／制作協力　ヒポコミュニケーションズ　一隅社　ハチプロダクション／上映協力　MOCプロジェクト／助成　文化庁文化芸術振興費補助金／企画・製作　いせフィルム／演出　伊勢真一

レビー小体型認知症とは
アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症とともに、「三大認知症」といわれている。パーキンソン症状と幻視・幻聴体験、そして認知症独特の記憶障害がみられる疾患。「レビー小体」とよばれる異常物質が脳組織に沈着する。症状には波があり、うつ症状もみられるため、同居する家族の精神的負担も大きい。

映画『ゆめのほとり －認知症グループホーム 福寿荘－』
2015年／カラー／85分／ハイビジョン



「でもね きっと
心は全部 わかってるんですよ」

グループホーム 福寿荘とは
北海道・札幌市内にある施設。アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症など、重度・軽度さまざまな症状を持つ42名の認知症の人々が共に暮らしている。武田純子代表が「一人を大切に」「支え合う心」「安心して暮らせる社会づくり」をモットーに、2000年に立ち上げた。

出演　認知症グループホーム福寿荘の仲間たち　ご家族のみなさん　武田純子　職員のみなさん／題字　細谷亮太／撮影　石倉隆二　世良隆浩／音響　米山靖／録音　渡辺丈彦　永峯康弘／照明　工藤和雄／編集技術　尾尻弘一／整音　井上久美子／主題曲「マイムマイム」／編曲・演奏　ママクリオ（クリスチィヌ　うえむらまさゆき　大野ミチル　ロケット・マツ／レコーディングmix　小俣佳久／絵　うえむらまさゆき／宣伝デザイン　森岡寛貴／企画・制作補　遠藤郁美／上映デスク　鷲見真弓／制作デスク　増馬則子／製作協力　ヒポコミュニケーションズ　一隅社　ハチプロダクション　ジオングラフィック／上映協力　MOCプロジェクト／企画・製作　いせフィルム／演出　伊勢真一

おばあちゃんたちに会って、監督は絵描きになった。
『妻の病』が肖像画のように描かれたタブローなら、
『ゆめのほとり』は儚い今を捉えたスケッチ帖だ。

いせひでこ（画家・絵本作家）

いつかぼくにもそんな日が来る。
ゆめのほとりに浮かぶ船。
この世に住処をなくしても、心に歌が生きている。

友部正人（音楽家・詩人）

ゆめのほとり……

知ることよりも
感じること、
言葉よりも
表情、
私よりも
あなた。
それが大切に思える
ところです。

岩永正敏
（企画コーディネイター）

IseTime ―いせ タイム―

2015.05 発行

号外

映画『妻の病』(2014) ／映画『ゆめのほとり』(2015)

認知症をテーマに伊勢真一監督が描いたヒューマンドキュメンタリー 2作品のご紹介

2014年／カラー／87分

▼映画「妻の病」の予告編

愛する人が認知症になったとき、一体何が大切なのか。

映画『妻の病－レビー小体型認知症－』

一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との
10年間に及ぶ“いのち”を巡る物語 ―――。

「痴呆」から「認知症」へと呼び名が改められ、
社会の認識が変わりつつあるといわれて10年あまりが経ちます。けれども、まだまだ「認知症」への“誤解”や“偏見”、そして、“あきらめ”がはびこっているのが現状です。

映画『妻の病 –レビー小体型認知症–』は、そういった状況の中で、悪戦苦闘しながら生きている「認知症」の患者本人と、家族やケアする人たちの日々を追ったひとつのケーススタディです。

主人公は、四国・南国市に暮らす、石本浩市・弥生夫妻。
今なお正確な情報が少ない「認知症」のひとつ、「レビー小体型認知症」と向き合い、
石本夫妻が手を取り合って、一歩一歩を大切に歩いていく姿が描かれます。

誰の上にも起きる可能性のある“認知症”という病。
愛する人が認知症になったとき、あるいは自分自身が認知症になったとき、何が大切なのか…。
この映画は、一人ひとりに深い問いを投げかけています。

「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめよう。
ただただ寄り添い、耳を澄ませてみよう。

映画『ゆめのほとり－認知症グループホーム 福寿荘－』

2015年／カラー／85分

▼映画「ゆめのほとり」の予告編

認知症グループホームを舞台に、一人ひとりの物語をスケッチした
穏やかで、静かで、優しいドキュメンタリー。

映画『ゆめのほとり－認知症グループホーム 福寿荘－』は、北海道・札幌市にあるグループホーム 福寿荘の日常を、2年間にわたって記録したドキュメンタリーです。
映画は、重度・軽度さまざまな認知症の人々が、それぞれの日々を共に生きる姿を淡々と映し出します。

この映画では、認知症に関する医学的な知識や社会制度などの説明や解釈は、ほとんどされていません。
認知症という病を見つめる以上に、そこに居る一人ひとりを見つめ、素朴に眼差しを向けること、ありのままの姿に触れることを大切にしました。認知症の本人に寄り添い、目を凝らし、耳を澄ませて、見つめること・・・。誤解や偏見を取り除くことこそが、認知症理解の第一歩だと思うのです。

認知症の人は“何もわからない・できない人”ではありません。
“本人なりの思いや願い・できる力を秘めている人”
“地域社会のなかで築いてきた暮らしや人生があり、今を生きている人”
“日々、喜怒哀楽を共にしながら、支え合っていくパートナー”です。

映画『妻の病－レビー小体型認知症－』（2014年製作）で、認知症の家族を夫婦愛の物語として描いた伊勢真一監督とそのスタッフが、グループホームを舞台に、一人ひとりの物語をスケッチした、
穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。

認知症のこと、そのケアのこと、そして“生きる”ということ。
観る人がそれぞれに深く思いを巡らせる映画として、受け止めてもらえたらと考えています。

いせフィルム http://www.isefilm.com TEL:03-3406-9455 FAX:03-3406-9460 E-mail:ise-film@rio.odn.ne.jp

2015.7.8 東京新聞 朝刊

記録映画「ゆめのほとり」完成

認知症 心は生きている

伊勢監督 ありのままの姿を撮影

認知症の人たちが寄り添って暮らすグループホームの日常を追ったドキュメンタリー映画「ゆめのほとり」が完成し、今秋から全国で公開される。レビー小体型認知症になった妻と夫の絆を描き、昨秋からロングラン上映されている「妻の病」と同様、伊勢真一監督(六七)＝写真(円内)＝の演出作品。認知症であっても心は生きていること、普通の人であることを、再び、静かに強く訴える内容となっている。

(白鳥龍也)

「ゆめのほとり」の舞台は、札幌市にある「福寿荘」。看護師出身の武田純子施設長(六七)が、「『認知症高齢者』とひとくくりにするのではなく、一人一人を大切にするケアをしたい」との願いから二〇〇〇年に開設した。施設の名は、雪の下から真っ先に咲くフクジュソウにちなみ、アルツハイマー型、レビー小体型、脳血管性などさまざまな原因と症状のある四十二人が三棟のホームに暮らしている。

作品は、「妻の病」を製作中だった伊勢監督が、「認知症の人のありのままの姿を、家族とは違う視点で見つめてみたい」と、並行して撮影に取り組み、ほぼ二年にわたる入所者の日々の営みを記録した。

認知症に関する医学的な解説や、社会制度の説明はほとんどない。

賛美歌を歌う。数え歌を歌う。鏡をじっと見つめて丁寧にうがいをする。「息子と娘が迎えにきてくれる」と言ってかばんを横にソファに座り込む。雪が降りしきる窓の外に目を向け「何人も人がいる」と幻覚のことを話す。

そんな高齢の女性、男性の姿を淡々と、カメラが見つめ続ける。深夜、一人一人の部屋の様子を見て回り、そっと布団を掛け直す職員たちの姿も。

そして、画面のところどころに挟まれるのが、武田施設長のつぶやき。「お年寄りたちは宝の山。いろんなことを教えてくれる」「私たちから何を差し上げられるかというと、こんなこと(お世話)ぐらいしかないんですよ」「人間は生まれるときと死ぬときは、誰かに手伝ってもらうのが当たり前」―。

〈勝って来るぞと勇ましく〜。突然、軍歌を歌いだした女性に対して、隣の女性が「そんな戦争の歌なんか歌って」と、たしなめるシーンもある。「戦争中は苦労したんだよ」「苦労したのはみんな同じ。自分一人で戦争したなんて言わないで」。女性たちのけんかからは、今を生きるお年寄りたちはみな、戦争の体験を背負っていることもあらためて思い知らされる。

認知症を扱ったドキュメンタリーを連続して作ったことについて、伊勢監督は「認知症に対する社会的な関心が高まっているから、というわけではない。(こんな病気だという)分かったふうな思い込みから脱し、(画面を通して)当事者をそばで見て、自分なりの理解を深めてほしい」と語る。

「妻の病」についても、認知症になった身近な親や祖父母の姿を重ねて見ることで「観客の皆さんが切実さを感じてくれている」といい、一回限りでなく異例の再上映会を催す自主上映会場が増えているという。

「ゆめのほとり」についても、劇場公開と並んで自主上映を行う団体などを募っている。問い合わせは「いせフィルム」＝電03(3406)9455＝へ。

「一に俵をふんまいて、二でにっこり笑って」…。遠い日を懐かしむように数え歌を歌う福寿荘入所の女性＝映画「ゆめのほとり」から(いせフィルム提供)

2015. 8. 24 現在

「ゆめのほとり －認知症グループホーム 福寿荘－」上映日程（最新作）

2015年8月30日（日）　ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》2015にて
大阪・阿倍野区民センター 大ホール／15時より
※上映後伊勢真一監督の舞台挨拶あり。（映画祭期間：8月28日（金）～30日（日））
主催：ヒューマンDFプロジェクト
問合せ： 080-6180-1542（ヒューマンDFプロジェクト）03-3406-9455（いせフィルム）

2015年9月26日（土）　第20回 ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷にて
東京・日比谷図書文化館　（予約優先制）
プログラム1（映画上映）：11時より　※上映後、伊勢真一監督による舞台挨拶あり。
プログラム２（トーク＆スライドショー（仮））：13 時 30 分より
　トーク　いせひでこ×いせしんいち
　トーク＆スライドショー「樹木たちよ！～いせひでこに語りかけるもの～」（仮）
主催：いせフィルム・クロスフィット・エンサイクロメディア
問合せ：03-3406-9455（いせフィルム）

2015年10月8日（木）　札幌・完成上映会
北海道・札幌エルプラザ・ホール／14時より／19時より
※14時の回の上映後伊勢真一監督×武田純子さん（福寿荘 代表）のトークショー、19時の回の上映後舞台挨拶あり。
主催：いせフィルム　　問合せ： 03-3406-9455（いせフィルム）080-6073-7303（札幌事務局・ライフアート）

「妻の病 －レビー小体型認知症－」上映日程（新作）

2015年9月13日（日）
兵庫・三田市総合福祉保健センター　多目的ホール／14時より
主催：兵庫県保険医協会　北摂丹波支部
問合せ：078-393-1809（兵庫県保険医協会　北摂丹波支部）

2015年9月19日（土）～9月25日（金）
京都・京都シネマ／12時15分より　　※9月20日（日）伊勢真一監督によるトークあり。
問合せ：075-353-4723（京都シネマ）

2015年9月27日（日）
神奈川（横浜市）・県民共済みらいホール／13時15分より　※伊勢真一監督によるトークあり。
主催：公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部
問合せ：044-522-6801（公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部）

2015年9月27日（日）
宮崎・都城市ウエルネス交流プラザ　ムジカホール／10時30分より／14時より／19時より
主催：シネサロン都城　　問合せ：0986-80-6028（シネサロン都城）

2015年10月1日（木）
鹿児島・かごしま県民交流センター　県民ホール／15時より／19時より
主催：特定非営利活動法人　介護支援専門員協会鹿児島
問合せ：099-286-0702（介護支援専門員協会鹿児島事務局・佐藤）

2015年10月10日（土）
三重・松阪市農業屋コミュニティ文化センター／13時45分より
主催：松阪市役所　健康ほけん部　高齢者支援課
問合せ：0598-53-4099（松阪市役所　健康ほけん部　高齢者支援課）

2015年10月18日（日）
高知（香南市）・のいちふれあいセンター／13時30分より
主催：香南市高齢者介護課　　問合せ：0887-57-8511（香南市高齢者介護課）

2015年10月22日（木）
東京・成城ホール／13時30分より
主催：世田谷区介護サービスネットワーク研修グループ
問合せ：090-3500-4062（世田谷区介護サービスネットワーク研修グループ・宮川）

「シバ 縄文犬のゆめ」上映日程

2015年9月26日（土）～10月2日（金）
京都・京都シネマ／10時20分より
※9月28日（月）伊勢真一監督×照井光夫さん（柴犬保存会会長）によるトークあり。
問合せ：075-353-4723（京都シネマ）

「大丈夫。 －小児科医・細谷亮太のコトバ－」上映日程

2015年9月19日（土）
滋賀・ピアザ淡海 大会議室／14時より　※伊勢真一監督×細谷亮太医師によるトークあり。
主催：びわこ学園医療福祉センター野洲
問合せ：077-587-1144（びわこ学園医療福祉センター野洲）

※各上映の予定は変更になる場合がございます。詳細は、各お問合せ先または、いせフィルムホームページにてご確認ください。

妻の病

— レビー小体型認知症 —

映画に寄せられた お客様からのご感想

ゆめのほとり

— 認知症グループホーム 福寿荘 —

2014年／カラー／87分

2015年／カラー／85分

ヒトが愛しくなる作品。（80代・男性）

今朝、妻と口喧嘩をしてしまい、
だからというわけではないのですが、
とてもタイムリーに響きました。（30代・男性）

しっかりと観ました。
久しぶりに生きることを考えています。（70代・女性）

脳はおとろえても、
心はまた別のところにあるのかもしれない、
と思いました。（30代・女性）

認知症であることで生活は変ってしまったけれど、
そこにある家族の物語や
苦しみのなかにある小さな幸せを
感じることができた。（女性）

認知症であっても、お二人がとても幸せそうでした。
浩市さんといる弥生さんの笑顔がステキでした。
「病」もいいものを与えてくれるのですね。
明日から夫と一日一日、
大切に生きていきたいです。（60代・女性）

「愛し直す作業を」と石本先生の手帳にあった。
愛するとは、自然に出来ることかと思っていた。
介護とは、愛する作業をやり直すことか。（無記名）

病に焦点を当てるのではなく、
人とその希望に焦点を当てていらっしゃる視点に
大きな共感を覚えました。
映画のなかで石本さんがおっしゃっていた
「魂がむきだしになり、
　そして初めて私は妻の本質を知るに至った」
という主旨のお言葉が非常に印象的でした。
そして弥生さんがずっと慎みや恥じらいを持ち続けて
いらっしゃること、笑い上戸でよく止まらなくなって
しまうこと、病が進行しても母校を訪れ校歌を歌い、
最後にはっきりと「お世話になりました」と
頭を下げられる姿などを拝見し、
人の人格、「魂の本質」とは何であろうかと
考えさせられると共に、美しいと感じました。（女性）

長い長い人生を過ごした人の、
静かな時が生まれることの大切さを教えてもらいました。
この映画のこと、家に帰ったら話そうと思います。
こんなに静かで豊かな時を迎えられたら
素晴らしいと思います。
いつかきっと来るだろうその時を迎える心の準備が
できたように思います。とても心に残りました。
「ゆめのほとり」歩んでみたいと思います。（70代・男性）

私は介護以来、お年寄りが嫌いになっていた
（自分もいい年だが）。
母に会いに行くのも、いつも気が重かった。
この映画を観て、新しい気持ちで母に、
あの場所に会いに行きたくなった。
何だか幸せな気持ちです。（60代・女性）

映画を観ながら、母や我が子の顔が浮かびました。
老いということ、人が生きて老いることに
初めて出会った、観た、触れた、
というような時間でした。
“そのまま”を届けていただき、
ありがとうございました。（無記名）

ゆったりした、それでいて
大切な事を伝えている作品でした。
認知症であっても、相手の心を読み取る力があり、
一人ひとり深い思いが心の中にひそんでいる。
そのことを近くにいる人が
認める大切さを教えられました。
（70代・女性・主婦）

出演されている皆さんの“その人らしさ”が
引き出された不思議な映画でした。
うがいの場面、精一杯生きる姿でした。
笑顔あり、歌あり、「論争」あり、
みんな生活していました。（男性）

これまで観てきた“ドキュメンタリー”映画は、
ナレーションや進行役に導かれながら
理解を深めるものが多かったように思います。
今回、そして前作の「妻の病」も、
現場と疑似体験できる楽しみを感じました。
ホストがいないからこそ心に響く作品でした。（40代・女性）

いせフィルム http://www.isefilm.com TEL:03-3406-9455 FAX:03-3406-9460 E-mail:ise-film@rio.odn.ne.jp